

「陶板名画の日」記念イベント  
「あなたの思い、陶板で永久に残します」セレモニー開催！  
《取材のご案内》

かけがえのない絵画や写真を、2000年以上残しませんか？  
陶板化希望者を募集した結果、全国から写真や絵画に寄せる熱い想いが集まりました。  
当日は、夢叶う3人が、感動のセレモニーに参加します。

2011年10月8日(土)「陶板名画の日」14時より

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。報道関係の皆さまには日ごろより何かとご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、大塚国際美術館では、2005年に10月8日が「陶板名画の日」に認定されたことを記念して、今年も個人のかげがえのない絵画や写真を陶板化する記念イベント「あなたの思い、陶板で永久に残します」を企画し、『私達のたからもの』という募集テーマのもと希望者を公募しました。

その結果、全国より、絵画や写真への熱い想いを綴った20通の応募が寄せられ、厳正なる審査の上、夢を叶える3名の方々を選考しました。

「陶板名画の日」当日は、実際に陶板化が実現した3名の方々に参加いただき、陶板の完成を祝う、披露セレモニーを開催します。

思い出の情景である54年ほど前の鳴門公園を描いた、父からの宝物(油絵)から、今年2月の大地震で大きな被害を受けたニュージーランドのクライストチャーチ大聖堂を倒壊前に撮影した写真のように、今後の復興の力となるもの、四国で1頭という介助犬を感謝と希望を込めて描いた絵という、まだ認知されていない介助犬の必要性を伝えるものまで、今回陶板化する絵画や写真には、多彩な人生や心模様が刻まれています。

陶板化すれば、このようなかけがえのない絵画や写真が再現され、2000年以上残ります。当日は、陶板化が実現した皆様をご家族やお仲間と共にお招きし、当館より陶板についての説明をして、完成した陶板をお渡しするセレモニーを実施します。今年は、B1Fに新たに設けた陶板紹介コーナーでの披露となります。

その中で、完成した陶板と大切な現物を披露し、夢が叶った感動を語っていただくシーンも設けました。

以下に当日の概要をご案内します。報道関係の皆様には、お忙しい中恐縮ですが、ぜひ、ご取材賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

謹 白

## 概 要

---

日時	2011年10月8日(土)14時より	受付は13時30分より開始いたします。
場所	大塚国際美術館 B1F 陶板紹介コーナー	
内容	・「陶板名画の日」についての紹介 ・陶板について説明 ・陶板化する3名の方々のご紹介 (陶板化した絵画や写真の簡単な紹介とインタビュー、完成した陶板を受け取った感動など)	

陶板化が決定した絵画や写真(応募コメントをそのままお伝えします)

- ・ いつも父は私と妹をつれて鳴門公園に毎週、絵を描きに行っていました。  
岡崎のポンポン(渡し舟)に乗り、土佐泊にわたり、バスに乗って、今の潮騒荘のあたりが、バスの終点。そこから、父は、カンバスと絵の具箱をかかえて、私と妹もクレパスと画用紙を持って、石の階段を登りました。  
父は熱心に描いています。私たちは絵を描くのが飽きるとドングリの実をいっぱい集めて、根上り松に登って、よく遊びました。  
父は、亡くなりましたが、本当にとっても懐かしい、父からの宝物が鳴門の、はだか島の絵です。  
現在、この島に大鳴門橋の支柱が立ち、もう二度と、あの風景は、ないのです。  
(亡き父からの宝物：鳴門のはだか島を描いた油絵 / 60歳女性 / 徳島県鳴門市)
- ・ 今から18年前、学生時代に研修旅行で、ニュージーランドのクライストチャーチに4日間ホームステイしました。  
学んでいた教室は市中心部の大聖堂近くにあり、大聖堂前広場で昼食をとったり、1日に何度も大聖堂を目にしました。広場には市民が憩い、大聖堂は街のシンボルであり、市民の誇りでした。  
研修旅行ではニュージーランドを1周しましたが、私にとって初めてホームステイしたクライストチャーチは忘れられない街で、外観も美しく存在感があり、みんなに愛される大聖堂は強く心に残り、私の大切な宝物となりました。  
ところが、今年2月22日のカンタベリー地震で倒壊。衝撃的な映像ニュースで見て、私の大好きな場所が形を変えてしまったことに涙が出ました。  
そして、近年連絡を取っていなかったホストファミリーの安否が心配になり、3年ぶりにやり取りをし無事を確認しましたが、当然、彼らは大聖堂が崩れてしまったことにとっても心を痛めていました。  
当選して陶板にして頂けたら、いつの日かクライストチャーチのホストファミリーの家に、18年前の大聖堂の姿を届けに行きたいと思います。  
カンタベリー地震で亡くなった方のご冥福をお祈りします。  
(倒壊前のクライストチャーチ大聖堂を撮影した写真 / 36歳女性 / 香川県高松市)



- 2001年に私は難病「多発性硬化症」のために両足麻痺、車イス生活を余儀なくされました。  
 落ち込む私は、家族がくれた色鉛筆によって絵を描くという新たな生きがいを得ました。  
 2006年に、私を助けてくれる介助犬たんぼぼ号と出会いました。  
 まだ全国で53頭・四国で1頭と少なく認知されていない介助犬を少しでも広めたいという気持ちで、たんぼぼ号を描くことは、私のライフワークとなっています。  
 この絵は家族や介助犬たんぼぼ号への感謝の気持ちとこれからの人生への希望の気持ちを込めて描きました。文字は妻に書いてもらっています。  
 (介助犬たんぼぼ号を描いた色鉛筆画 / 44歳男性 / 徳島県三好郡)

《お願い》

お手数ですが準備の都合上、**10月7日(金)まで**に下記FAX番号まで、ご出欠に関しましてご返信くださいますよう、お願い申し上げます。

FAX番号：088-687-1117 (大塚国際美術館)

ご出席 ・ ご欠席			
貴社名		お名前	
連絡先			

《本件に関するお問合わせ先》

大塚国際美術館 企画・広報部：坂本明子

TEL：088-687-3737 FAX：088-687-1117

<http://www.o-museum.or.jp/>

徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内

大塚国際美術館  
OTSUKA MUSEUM OF ART